

[宅建合格者が令和の不動産・建設業界で成功するために]

[建物の知識が実務では重視される]

TAC

建物の知識を有する宅建士へ [建設・不動産業界は、深刻な人材不足です]

- [建築士の70%は50代以上！]
- [2級建築士合格者の3人に1人は女性]
- [1級建築施工管理技士の一次合格率は40%]
- [求人サイトでは高収入の募集]
- [法知識を持つ建築士、施工管理技士は少数]



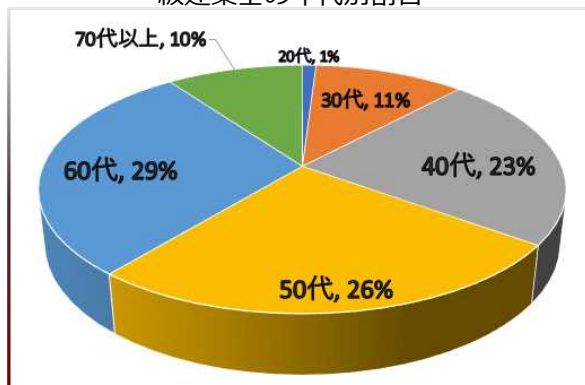
TAC

[建築関連ライセンスは美味しい！]

TAC

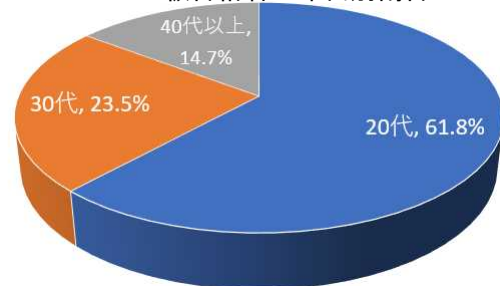
[高齢化する一級建築士]

一級建築士の年代別割合



○ [若年層の合格者が8割以上]

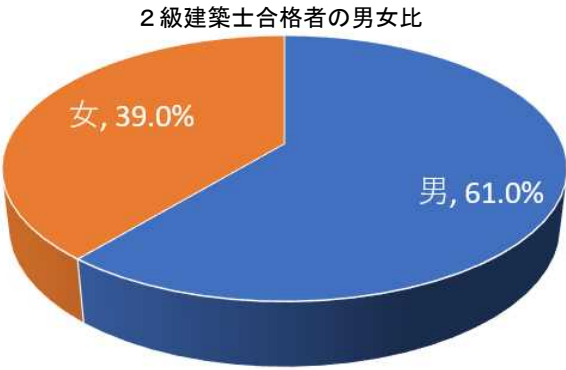
R5の一級合格者の年代別割合



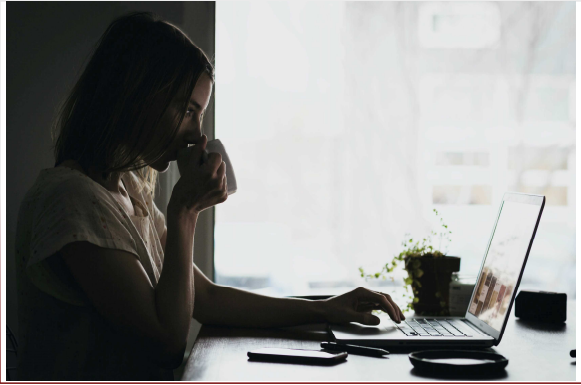
- ・試験制度の変更⇒実務経験不要となった
- ・1年の1級合格者数は3500人程度
- ・1級学科は16%～20%程度の合格率
- ・1級製図は35%程度の合格率
- ・2級学科は40%、製図は50%程度の合格率
- ・資格の価値に比して易しい国家試験

TAC

- 1級も合格者の4人に1人は女性
- 設計はデスクワーク
- 設計はデザイナー的要素
- 住宅設計は女性の視点が大切



[2級建築士合格者の4割は女性]



TAC

[1級建築施工管理技士の合格率は一次40%、二次45%]

一次検定の受験データ

年度	受検者	合格者	合格率
令和5年	24,078	10,017	41.60%
令和4年	27,253	12,755	46.80%
令和3年	22,277	8,025	36.00%
令和2年	22,742	11,619	51.10%
令和元年	25,392	10,837	42.70%
平成30年	25,198	9,229	36.60%

- 一次検定は19歳以上なら誰でも受験できる

- ・ 合格者は、「1級建築施工管理技士補」
- ・ 二次検定は合格後に1年～5年の実務経験
- ・ 二次検定の合格率も45%程度と高い

二次検定の受験データ

年度	受検者	合格者	合格率
令和4年	13,010	5,878	45.20%
令和3年	12,813	6,708	52.40%
令和2年	16,946	6,898	40.70%
令和元年	15,876	7,378	46.50%
平成30年	15,145	5,619	37.10%
平成29年	16,505	5,537	33.50%

TAC

[本試験の出題は]

[建築士と施工管理技士で比べると]

TAC

建築士試験（学科）

1級学科試験（4択マークシート）							
科目	計画	環境設備	法規	構造	施工	計	合格点
出題数	20	20	30	30	25	125	92
2級学科試験（5択マークシート）							
科目	計画	法規	構造	施工	計	合格点	
出題数	25	25	25	25	100	60	

- 計画、環境設備⇒設計者として知っておくべき基本。出題範囲は広い。
- 法規⇒建築基準法が中心。宅建より細かい知識が問われるが、条文を見ながら解答できる。
- 構造⇒鉄筋コンクリートや木造の強度や構造上の特性など。力学の計算問題も出る。
- 施工⇒建物を建てる基本的な工法が出題される。

TAC

1級建築施工管理技士試験（一次）

検定科目	検定基準	解答形式
建築学等	1. 建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な建築学、土木工学、電気工学、電気通信工学及び機械工学に関する一般的な知識を有すること。	四肢一択 （マークシート）
	2. 建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な設計図書に関する一般的な知識を有すること。	
施工管理法	1. 監理技術者補佐として、建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な施工計画の作成方法及び工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理方法に関する知識を有すること。	五肢二択 （マークシート）
	2. 監理技術者補佐として、建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な応用能力を有すること。	四肢一択 （マークシート）
法規	建設工事の施工の管理を適確に行うために必要な法令に関する一般的な知識を有すること。	

○出題数は72問。そのうち60問を選択して解答し、36問以上の正解が合格点
○五肢二択は6問出題され、4問又は3問以上の正解が必要



[宅建合格者はここが有利]

[理系受験生は、法規が苦手]



学習方法は宅建と同じ、出題範囲も一部類似

- 本試験は過去問の再現率が高い
 - 一級建築士で約6割
 - 二級建築士、1級建築施工管理技士で約7割
- 法規は宅建の学習が役立つ
 - 建築試験の法規は、建築基準法がメイン
建築士法は宅建業法と構造が同じ
 - 施工管理技士の法規も、建築基準法が出題されるほか、
宅建業法と構造が同じ建設業法が出題(計6/10)

TAC

初見の言葉が多いのも宅建と同じ

- 民法の学習経験が生きる
 - 宅建合格者は民法の学習経験から、考える訓練ができています。
 - 丸暗記を回避できる
- 建築基準法以外も同じ出題範囲が
 - 建築士試験では都市計画法、住宅品質確保法、瑕疵担保履行法、旧宅造法、土地区画整理法も出題範囲
- 構造力学は守りの学習を
 - 建築士試験では6問中3問の正解を目指す。施工管理技士試験では3問全部を非選択にすることも可

TAC

[建築士受験資格をとるために]

[大学の建築学部以外にも道がある]

TAC

建築士の受験資格

- 一級建築士は大学の建築学部や建築系の専門学校等を卒業で受験資格となる。合格後、原則2年間の実務経験で一級建築士登録ができる。
- 二級建築士は大学の建築学部や建築系の専門学校等を卒業で受験資格となり、直ちに資格登録できる。
- 二級建築士は7年の実務経験だけで受験資格を得ることもできる。

TAC

社会人には専門学校の夜間クラスがお勧め

- 2年間で一級、二級の受験資格が得られる。
- 建築の基礎教育を2年間受けられる。
- 専門実践教育訓練給付金により、受講料の50% (2年間で80万円が上限) が支給され、さらに資格合格で追加支給あり。
→ 令和7年3月31日まで
(例) 青山製図専門学校

<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/subject/lp-construction/architecture3>

TAC

[施工管理技士の受験資格]

[一次検定は19歳以上なら誰でも受験できる]

TAC

社会人には専門学校の夜間クラスがお勧め

- 一次に合格すると「1級建築施工管理技士補」の称号が付与。
- 二次検定の受験資格は、一次合格後に所定の実務経験(1年～5年)が必要。
 - 二次検定の出題は、実務経験を前提としているため、経験が欠かせない。
- 二次に合格すると、研修を受けて監理技術者になれる。所定の規模の工事現場には、専任の監理技術者が必須のため、建設会社では引く手あまた。

TAC

[製造の建築士＋流通の宅建]

[ダブルライセンスで高収入を目指せ！]

TAC